

めぐみ

2024年
1月号

学校法人 聖公会北関東学園
認定こども園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

ファゴットと私の

補助職員 中村 紅子



本番のたびに増えていく楽器たち

中1の冬。帰宅部だった私が吹奏楽部に入ったのは、サックスが足りないから手伝って、とクラスメイトに頼まれたのがきっかけでした。元々音楽が好きで、人助けに弱い性分で流されるように入部していました。たくさんの音が重なって音楽が紡がれる合奏は心が震えるほど楽しい時間で、すぐに夢中になりました。

高校でも迷わず吹奏楽部へ。楽器紹介で楽しそうだった打楽器を選びました。ところが初合奏の日、出会ってしまったのです、ファゴットに。見目麗しく豊かな音色、広い音域。瞬時に心射抜かれました。楽器紹介の時には見なかったその楽器は、クラリネットのジャンケンに負けた子が渋々吹いていたのです。「そんなことなら私が」と、合奏の度に横目で何うも打楽器の魅力も捨て

がたく高校生活を捧げたのでした。一年360日は部活だったのでしょうか。今でも打楽器をそこそこ操れるのはこの時の練習の賜物。当時の自分に感謝です。

時は流れファゴットを吹きたい気持ちを淡く持ちつつも、楽器は高いし先生はいない。卒業して知る吹奏楽部の贅沢さ。部活でもない限り楽器に触れる機会などなかなかないのです。転機は東日本大震災でした。大きな揺れの中「ここで死ぬならファゴット習っておけば良かった」と心底後悔した私は先生探しを開始。伝手がないまま数ヶ月経ったある日、当時息子が習っていたチェロの先生が産休になり、代行の方が「今度ファゴットの方と仕事をするので聞いてみますね」と言ってくださったのです。後日「教えてくれるそうですよ。どうしますか?」と聞かれた私の頭の中に「チャンスの女神は前髪しかない」と言う言葉がよぎりその場で習う事を決めたのでした。

ようやく対面になったファゴットは中々の気難し屋でしたが、他の楽器との親和性が高く私の合奏の幅を一気に広げてくれました。師匠のピアノやファゴットと、子どもたちの弦楽器と、初雁で出会った友人たちのリコーダーと。合奏は年齢、性別、言語を超え、楽譜さえあれば初めましての人とも演奏でき、言葉で会話するのとは違う相手の一面が垣間見られる至福の時間です。

片言から始まったファゴットとの対話は人と何ら変わりなく、自分を押し付けず、相手の話も聴き、時には向いてないのかなと凹みながら少しずつ距離を縮め、ようやく同じ言語を話すと親しい友人くらいになりました。今年からはアマチュアオーケストラに所属することになり、楽器とともに音楽の世界がますます広がっていきそうです。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ

「やってみたい！」

今月のねがい

- 友だちとアイデアを出し合い、工夫して遊びを充実させる
- 神様への思いがふくらむ

学年別のねがい

- (1歳) 身体をいっぱい動かす
- (2歳・満3歳) 友だちとのつながりを楽しむ
- (年少組) 友だちと一緒に遊びを充実させる
- (年中組) 集団で遊ぶおもしろさを感じる
- (年長組) 活動に見通しを持ちながら取り組む

ひとこと

新しい年を迎えました。今年もどうぞよろしくお願いたします。いよいよ3学期。友だちとの仲が深まり、遊びが広がったり、時にはぶつかり合ったり。さまざまなトラブルを経て、また一つ成長する姿が見られることでしょう。年上のクラスに憧れを持ったり、「やってみたい！」と挑戦する姿を大切にしながら過ごしていきます。陽がでると暖かい日中は、上着も着ずに外に飛び出す子どもたち。園庭には元気な声が響いています。寒さに負けず、身体をいっぱい動かして遊ぼうね。

今月の聖歌 「アーメンハレルヤ」

今月の歌 「ドロップスのうた」

★予定★

日	曜	行事などの予定
1	月	元日
2	火	就労家庭保育実施日
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	就労家庭保育実施日
7	日	
8	月	成人の日
9	火	始業式・短縮(半日保育)
10	水	
11	木	社会見学 アルミ缶回収日
12	金	全体礼拝 ↓
13	土	就労家庭保育実施日
14	日	
15	月	ルンビニ幼稚園との合同ミニ観劇会
16	火	
17	水	
18	木	おはなしの会
19	金	全体礼拝
20	土	就労家庭保育実施日
21	日	
22	月	全埼私幼・川私幼合同フォーラム
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	全体礼拝
27	土	就労家庭保育実施日
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	1月生まれ誕生会(年少組出し物)



チャプレンのページ



イエス様初の礼拝

エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した

ルカによる福音書 第2章 38節

「なんで髪の毛が白いの」、子どもたちからよくされる質問です。もうおじいさんだからと答えることにしていますが、子どもたちはよく理解できないようで、首を傾げたまま次の遊びへと出かけていきます。

子どものころ、近所に住んでいた 60 代のおじいちゃんおばあちゃんの手がしわしわなのが不思議でした。当時の日本人平均寿命は現在より 10 年以上若かったと思います。ふと自分自身の手を見ると、子どものころ見たおじいちゃんおばあちゃんの手に近づいていて、愕然とする思いです。

ユダヤの国では誕生後 40 日目に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」との律法の定めにより、礼拝に行くことになっていました。イエス様が生まれたのが 12 月 25 日としますと、40 日目は 2 月 2 日になります。ヨセフとマリヤはイエス様を抱きつつ、エルサレムの神殿に行きました。

神殿に行くと、そこでシメオンという人に出会います。シメオンは信仰の篤い人であったと記されています（ルカによる福音書第2章 25 節）。シメオンは「遣わすメシアに会うまでは決して死なない（ルカによる福音書第2章 26 節）」と神様から告げられていて、神様に導かれるままイエス様に会います。そしてシメオンはイエス様を抱き上げ、この幼子こそ人々が何百年待ち望んでいた救い主メシアであると、神様を讃美しました。

この時シメオンが讃美したのが「シメオンの賛歌」で、私たちの教会ではクリスマスイブ礼拝をはじめ、夕の礼拝でよく用いる讃美となっています。

またシメオンと一緒にアンナという女性の預言者がいました。すでに 84 歳の高齢でしたが、シメオンと共にイエス様に近づき、イエス様のことを人々に告げ知らせました（ルカによる福音書第2章 38 節）。

人生を重ねるとはどういうことか、それは、いつ命を終えることになっても悔いのないように生きることであり、最後まで神様に従う心を失わないようにと、ルカによる福音書は語っているのです。

この物語をもって、ルカによる福音書が記すイエス様誕生物語は区切りとなり、イエス様はヨセフとマリヤとともにナザレへ行き、幼少期を過ごされることになったと記されています。誕生物語の最後に人生を重ねた 2 人の人物が登場し、先に生きてきた者の責任や使命について語られているのは興味深いことです。

2024 年は年明けとともに大きな自然災害や事故が発生し、私たちに驚かせました。困難のうちにある人々に、主の豊かな励ましと慰めが豊かにありますよう祈りつつ、2023 年度締めくくりの時をともに過ごしてまいりましょう。

（鈴木 伸明）

クラスの窓



つくし組

山登りにチャレンジ



日々の保育では、もも組と合同で散歩へ行くこともあります。お兄さんお姉さんと手をつないでの散歩も楽しみの一つです。一緒に遊ぶと「こんなこともできるんだ、やってみたいな」と刺激がいっぱい。先日、初雁公園へ行きました。いつも遊具や芝生で遊んでいるのですが、Aくんが「お山行きたい」といいました。前回、もも組が山に登っているのを「じーっ」と見ていたんですね。ならばとみんなでチャレンジ！「木の根っこを持って！」とレクチャーするものの、何せ初めての山登り。うまく屈んで掴むことができずツルツル滑ってしまい、若干パニックになる子も。なんとか先に頂上に登った子が「がんばれがんばれ！」と応援してくれると、抱っこを求めていた子も登ることができました。全員に登りきった頂上で「やったー！」と大喜び。一番小さなクラスですが、仲間意識が芽生えてきていることに感動しました。苦

戦して登ったので、もう登らないかと密かに思っていたのですが、まさかの「もういっかい！」とリクエスト（笑）。ツルツル滑りながら登る子どもたちでしたが、回数を重ねて行く度にコツを掴み、子どもたちのたくましさで成長を感じました。

もも組

神様を感じて

毎日ではないものの朝の会の最後にお祈りをしてきたもも組。「おててぎゅー、お祈りします」と言うとき手を組んで目を「ぎゅっ」とつむる姿が増えてきました。また、何度か教会の中に入ってみたり、ホールでの礼拝にも参加させてもらい雰囲気を感じてきました。部屋の装飾や幼児さんのクリスマスツリーを見てクリスマスが近づいていると感じていたため、「クリスマスは神様のお誕生日」ということと「お兄さんたちは教会で劇をする」ことを伝えました。聖劇礼拝当日、椅子にじっと座っていることは難しいけれど興味津々に見学するもも組。特に歌が聴こえてくると歌っている保護者の方をじーっとして見てなんとなく歌おうとしていたり、素敵な衣装を見てうっとりする子もいました。帰り道では「ちゅうりっぷさんになったらみんなもひつじさんやるんだよ」と伝えると「やったー！」と喜んで保育者とひつじの歌を歌って帰りました。いろいろな場面で少しずつ神様を感じられているといいなと思います。



ちゅうりっぷ組

初めての聖劇礼拝よくがんばりました

聖劇に向けて少しずつ準備を行ってきました。まず始めに、担任がペープサートを使ってクリスマスの意味を子どもたちに伝えます。そのなかで羊さんが出てきました。少しずつ羊に親しみを持てるよう、羊ごっこで遊んだり集まりで歌を歌ったりしました。次第に集まりのなかで「めえめえ～」と返事する子がいたり、「ひつーじーさん、めえめえめえ」と口ずさんでいたりする姿に私は「よし！いいぞいいぞ」と心の中でガッツポーズ！聖劇に向けて楽しみができるように羊の衣装をプレゼントで届いたことにすると、「着てみたい」とノリノリで着ることができました。歌と踊りが好きなクラスなので一回練習しただけで覚え、その後も自由遊び中に友だち同士で踊る姿も見え、楽しみながら聖劇の日を迎えました。ご家族が見守るなかで緊張することなく、かわいく歌い元気に跳び跳ねる姿を見てもらい、子どもたちはとても嬉しそうでした。初めての聖劇礼拝よくがんばったね♪



たんぽぽ組

前に進もうとするみんなの姿に感動

2学期、さまざまな行事を乗り越えて、力をつけたみんな。鉄棒で逆上がりにチャレンジする子がいれば、自分も鉄棒に触れ、いろいろな技をやってみる姿があります。長縄跳びを跳べるようになった子がいた時は、最初は見ただけで誘っても断ってばかりだった子も、チャレンジする姿がみられるようになってきました。子どもたちそれぞれに、苦手なことがあります。嫌なことがあると、すぐ泣いてしまう子。友だちに主張する時に、強い言葉で泣かせてしまう子、恥ずかしくて、みんなの前では言葉が出てこない子、苦手なことにはなかなかチャレンジする勇気がない子など。でもどの子も友だちの応援や刺激を受け、その課題をその子なりに突破していこうとする姿が見られ嬉しくなります。すぐ泣く子は、ぐっと我慢しようとし、強い言葉の子も優しい言葉を探して伝えます。みんなの前でも友だちとともに堂々と発表したり、苦手なことは家でも練習してきたり、前に進もうとするみんなの姿に感動します。クリスマスでは、星の役をがんばりました。待ち時間も長かったのですが、すみれ組の姿に来年の自分たちの姿を重ね、きれいな歌声を披露してくれました。来年もますます成長していくみんなと一緒に過ごしていけることを楽しみにしています。

すみれ組

挑戦することの大切さを知ったみんなだからこそ

聖劇礼拝では自分の役を立派に演じ、みんなでイエス様のお誕生をお祝いしました。先月号の「めぐみ」にも書いてあるように、役決めではさまざまな思いがありましたが、役が決まっただけからは自分の役に親しみを持ち、練習に参加していました。

迎えた当日。みんなの緊張感、見守っていた私にもひしひしと伝わりました。そんな中でも一人一人が自分の出番で力を発揮し、セリフや歌を通して見ている人に一生懸命伝えようとする姿。セリフが詰まった子がいれば隣りでコソッと教え助ける姿。待っている時も頑張る友だちの姿を見て応援する姿。どの瞬間も自分たちの力で聖劇礼拝を進めようと懸命な子どもたちでした。

振り返れば、進級当初は挑戦することが苦手な子が多かったすみれ組。ですが、日常の中でたくさんのことを乗り越え、少しずつ自信がつき、挑戦することの大切さを知ったみんなにしか見せることのできない聖劇礼拝になったと思います。あんなに小さかったみんなが、立派に成長し堂々と役を演じ切る姿に、思わず涙があふれました。毎年、聖劇礼拝はそんなみんなの成長が心から嬉しく感動する反面、すみれで過ごせる日々の少なさも実感します。3学期は本当にあっという間。残された一日一日を、全力で楽しみながら大切に過ごしていきたいです。

わが家のまど



(298) ボードゲーム

つくし組担当教諭 山田 葉月



お正月はどのようにお過ごしでしたか？わが家ではまったりし始めると大抵私がボードゲームを持ち出しゲーム大会が始まります（笑）。幼いころは簡単な絵合わせから。成長するにつれUNOやトランプ、カルタ、人生ゲームも楽しめるようになりました。そんなわが家でヒットしたのが「ぴっぐテン」。10までの数字を足したり引いたりする簡単なカードゲーム。計算が苦手だった娘ですが、苦手意識なく楽しんでいる姿に母はニンマリ。先日、園でボードゲームを使うことになり、久しぶりに家族で「ぴっぐテン」をしました。中高生になり、一つのを囲んで遊ぶことが少なくなってきたわが家が久しぶりに賑わいました。

駆け引きをしながらお互いの顔を見ながら遊べるのはボードゲームのいいところ。とても盛り上がり楽しかったです。

それではここで数あるゲームからお勧めを二つ紹介したいと思います！猫に追いつかれないようにチーズをゲットする「ネコとネズミの大レース」。そして、持ち手カードから中華料理の名前を組み合わせる「音速飯店」。盛り上がります！温かみがあり、笑ったり悔しんだりしたわが家の歴史の詰まったボードゲーム。孫の代まで大切にとっておきたいと思います。



今月の聖書のおはなし



☆ 1月12日 「子どものサムエル」

サムエル記上 1:1~28、2:12~4:1

幼いサムエルは祭司エリの元で主に仕えていました。エリは目が霞んで見えなくなり、自分の部屋で寝ていました。サムエルが主の神殿で寝ていると「サムエルよ、サムエルよ」という声が聞こえました。サムエルはエリのところへ行き「私はここにいます」と答えましたが、エリは「私は呼んでいない。部屋に戻って寝なさい」と言いました。その後部屋に戻っても、何度も自分を呼ぶ声が聞こえたため、エリの元へ行きましたが声の主はエリではありませんでした。エリはサムエルを呼ぶ声は、神様であると悟りました。そこでエリはサムエルに「もしまた呼ばれたら、『しもべは聞きます。主よ、お話してください』と答えなさい」と言いました。サムエルは、エリに言われた通りに答えました。

☆ 1月 19日 「ダビデ物語 I 油を注がれたダビデ」

サムエル記上 16:1~13

主はサムエルに「壺いっぱいにおリーブ油を入れて、ベツレヘムへ行きエッサイという人を探しなさい。その者の息子を王に選んだ」と言いました。サムエルは主の言葉通りベツレヘムへ向かいます。サムエルは、エリアブを一目見て「この人こそ主が選んだ人だ」と思いましたが、主は「容貌や背の高さで判断してはいけません。この人ではない」と答えました。その後もエッサイの7人の息子がサムエルの前に立ちましたが、みんな主には選ばれませんでした。最後に羊の番をしている末っ子が連れて来られました。健康そうで、綺麗な目をした少年でした。そのとき「この人に油を注ぎなさい」との主の声が聞こえました。少年ダビデの頭にオリーブ油を注ぐと、主の霊がダビデに下り、その日から力が与えられました。

☆ 1月 26日 「ダビデ物語 II ダビデとゴリアト」

サムエル記上 17:1~58

イスラエル軍とペリシテ軍との戦いが起きていました。ペリシテ軍には、身長が3メートル近くあるゴリアトという巨人がいました。青銅の武具を身につけ、槍などを持っています。ゴリアトはイスラエル軍に「自分と闘い、勝ったらお前たちの奴隷になろう」と言いました。しかし、ゴリアトと闘おうと思う人は誰もいませんでした。そこで、ダビデは自分が戦おうとしました。サウル王は「大男に体の小さいダビデが戦えるわけがない」と止めましたが、ダビデは「きっと神様が助けてくださる」と思い、ゴリアトのところへ向かいました。ゴリアトは武具を身に付けていましたが、ダビデは何も身に付けていません。ダビデは石を5つだけ持ちました。ゴリアトは自分の相手がダビデと知り、笑いました。ダビデは石をゴリアトに投げました。ゴリアトは倒れ、ダビデはイスラエル軍に勝利をもたらしました。